

日吉町埋蔵文化財発掘調査報告書（1）

県営ほ場整備（日吉地区）事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

瀬戸口遺跡

1993年3月

鹿児島県日吉町教育委員会

序 文

この報告書は、県営ほ場整備（日吉地区）に伴う発掘調査報告書であります。本町におきまして、本格的な埋蔵文化財の発掘調査ははじめての経験でしたが、関係機関や関係者の協力により無事終了することができました。

今回、井尻遺跡と瀬戸口遺跡の両遺跡が事業区内に存在していましたが、井尻遺跡については、関係者により事業区から除外していただき、一方瀬戸口遺跡については、今回の確認調査の結果により現地保存していただきました。

ここに、調査の詳細を報告書として刊行することとなりました。この調査結果が、今後の郷土教育の資料として、また文化財保護のために適切に活用されますように念願いたします。

また、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、県教育委員会文化課、県立埋蔵文化財センター、土地所有者、その他関係の方々のご協力によって出来たものであります、深甚の謝意を表す次第であります。

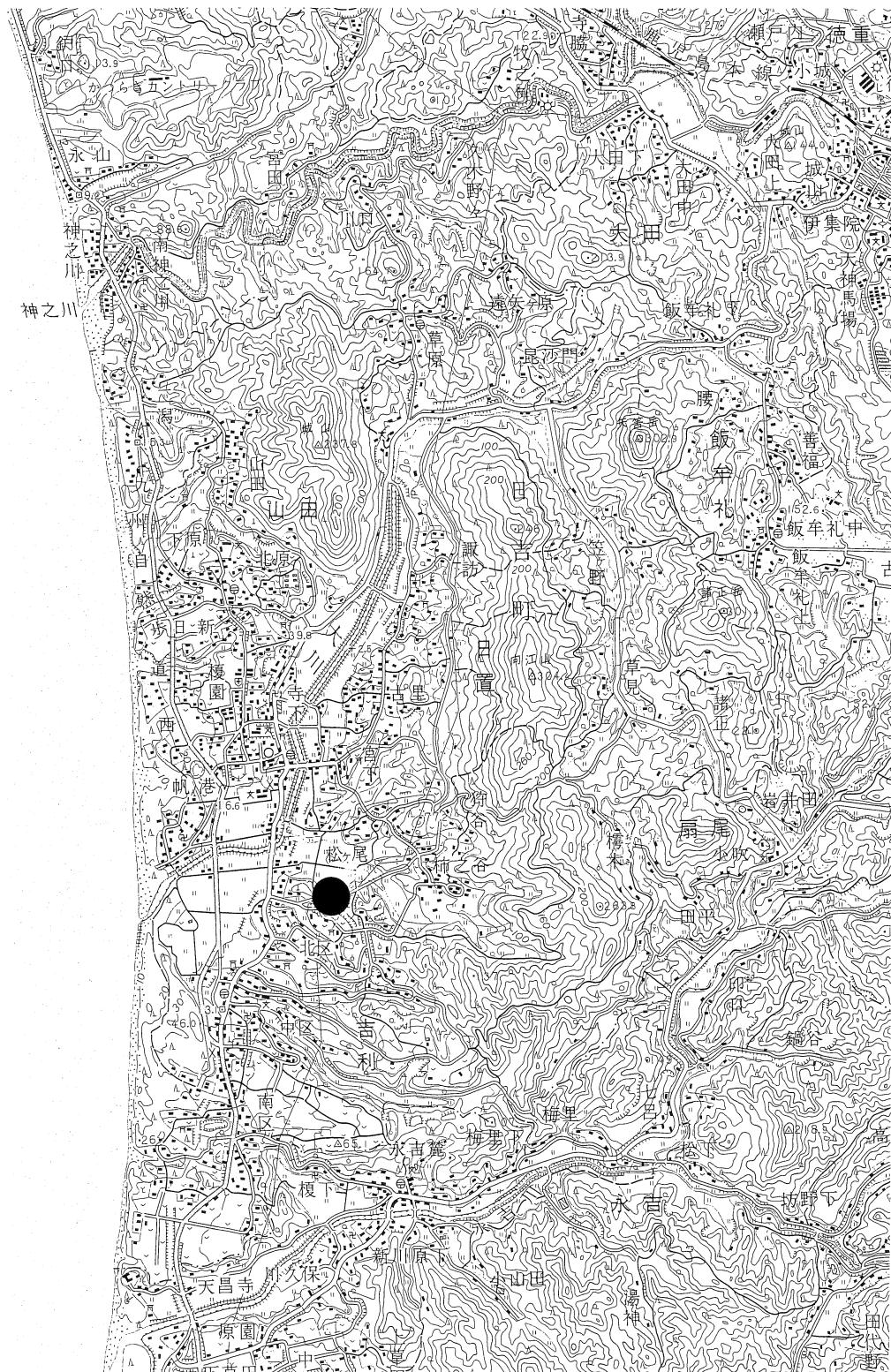
平成5年3月

鹿児島県日吉町教育委員会

教育長 今中 一芳

報 告 書 抄 錄

フリガナ	セトグチイセキ				
書名	瀬戸口遺跡				
シリーズ名	日吉町埋蔵文化財発掘調査報告書				
シリーズ番号	1				
編著者名	立神次郎・大久保浩二				
編集機関	日吉町教育委員会				
所在地	〒899-31 日置郡日吉町日置377				
発行年月日	1993年3月31日				
フリガナ	セトグチイセキ				
所収遺跡名	セトグチ遺跡				
フリガナ	ヒオキグン ヒヨシチョウ ヨシトシ アザ セトグチ				
所在地	日置郡日吉町吉利字瀬戸口				
調査期間	H4年9月7日～9月11日				
調査面積	66m ²				
調査原因	県営ほ場整備事業				
出土 遺 物 ・ 遺 構 等	主な時代	主な遺構	主な遺物	出土量	特記
	縄文時代	なし	晩期・土器片	パンケース5	
	歴史時代		土師器 須恵器 青磁器 白磁器		



第1図 遺跡位置図

例　　言

- 1．本報告書は、平成4年度に実施した県営ほ場整備（日吉地区）事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2．発掘調査は、日吉町教育委員会が鹿児島県農政部（伊集院耕地事務所）の依頼を受けて、県立埋蔵文化財センターが実施した。
- 3．本報告書の執筆・編集は、立神次郎・大久保浩二が担当した。
- 4．本書で用いたレベル数値は海拔絶対高で、挿図中の遺物番号は図版中の番号と一致する。
- 5．本書で用いた地図は、鹿児島県農政部伊集院耕地事務所及び日吉町所有のもの使用した。
- 6．出土遺物の管理・保管は、日吉町教育委員会で一括して取り扱っている。

本文目次

序文	
抄録	
例言	
第1章 調査の経過	1
第1節 調査に至るまでの経過	1
第2節 調査の組織	1
第3節 調査の経過	2
第2章 遺跡の位置及び環境	3
第3章 確認調査	5
第1節 調査の概要	5
第2節 層序	5
第3節 各トレンチの調査	8
(1) 1トレンチの調査	8
(2) 2トレンチの調査	8
(3) 3トレンチの調査	8
(4) 4トレンチの調査	8
(5) 5トレンチの調査	11
(6) 6トレンチの調査	11
(7) 7トレンチの調査	12
(8) 8トレンチの調査	12
第4章 調査のまとめ	18

挿図目次

第1図 遺跡位置図	
第2図 周辺の遺跡	4
第3図 瀬戸口遺跡及び周辺地形図	6
第4図 トレンチ配置図	7
第5図 1～4トレンチ土層断面及び4トレンチ遺物出土状況	9
第6図 4・5トレンチ出土遺物	10
第7図 5・6トレンチ遺物出土状況及び土層断面図	13
第8図 5・6トレンチ出土遺物	14

第9図	7・8トレンチ遺物出土状況及び土層断面図	15
第10図	8トレンチ・表採遺物	16

表 目 次

第1表	周辺の遺跡一覧表	4
第2表	遺物観察表	17

図 版

図版1	遺跡近景・調査風景	19
図版2	4トレンチ調査風景	20
図版3	4・7トレンチ調査風景, 2トレンチ完掘状況	21
図版4	2トレンチ完掘状況, 4トレンチ遺物出土状況	22
図版5	4・5トレンチ遺物出土状況, 4トレンチ土層断面	23
図版6	8トレンチ遺物出土状況, 4トレンチ遺物出土状況	24
図版7	5・6トレンチ土層断面, 7トレンチ完掘状況	25
図版8	出土遺物	26

第1章 調査の経過

第1節 調査に至るまでの経過

鹿児島県教育委員会及び日吉町教育委員会は、文化財保護・活用を図るために諸開発機関と、事業着手前に文化財の有無について協議し開発との調整を図っている。

この事前協議制に基づき、鹿児島県農政部（伊集院耕地事務所）は、町内の日置地区に県営ほ場整備（日吉地区）を計画して逐次事業を推進し、併せて同地区内における埋蔵文化財の有無について、鹿児島県教育庁文化課（以下、県文化課）に照会した。

県文化課は、日吉町教育委員会・同町耕地課・伊集院耕地事務所の4者で平成2年に同地区的分布調査を実施したところ、平成4年度工事施工区域内に井戸遺跡と瀬戸口遺跡とが所在していることが確認された。

そこで、遺跡の取り扱いについて、4者で協議した結果、井戸遺跡については現地保存の処置を施した。瀬戸口遺跡については、同事業の着手前に確認調査を実施する運びとなった。

確認調査は、日吉町教育委員会が調査主体となり、発掘調査担当者の派遣を県立埋蔵文化財センターに依頼し、平成4年9月7日から9月11日までの実働5日間実施した。

第2節 調査の組織

調査主体 鹿児島県日吉町教育委員会

調査企画・調整 鹿児島県教育長文化課

調査責任者 日吉町教育委員会 教育長 今中一芳

調査事務担当 ウ
社会教育課長 吉田正昭

ウ
係長 古垣道夫

ウ
係長 高橋政光

ウ
主任 正留智子

調査担当者 鹿児島県立埋蔵文化財センター 文化財主事 立神次郎

ウ
文化財研究員 大久保浩二

第3節 調査の経過

井尻遺跡と瀬戸口遺跡は、平成2年度の分布調査の結果所在が判明した遺跡で、井尻遺跡については事業区域から地区除外とし、現地での保存処置が行われた。一方瀬戸口遺跡では平成4年9月7日から9月11日までに確認調査を実施した。以下、調査の経過については日誌抄をもってかえたい。

9月7日

プレハブ・テントの設営。機材等の搬入。作業員に対して作業上の注意と留意点について説明を実施する。調査対象地について下払いを実施して消却を行う。

1～5トレンチを設定し表土から掘り下げを進める。1トレンチは、30～40cmでシラス層に達する。2トレンチは、10～60cm程度でシラス層に達する。4トレンチは、青磁器・須恵器・土師器などの遺物が出土する。遺物包含層は北側へ傾斜している。

9月8日

1・2トレンチの精査作業を実施し、土層断面写真撮影及び断面実測を行う。3トレンチは40cm程度で地山に達する。4トレンチは、引き続き遺物の出土が見られた。5トレンチは、Ⅲ層灰褐色土の遺物包含層について掘り下げる。遺物としては、須恵器・土師器などがトレンチ中央付近より集中して出土する。7・8トレンチを設定して掘り下げを進める。7トレンチは、Ⅲ層掘り下げを実施。Ⅱ層は削平を受けている。8トレンチは遺物包含層を掘り下げる。土器の小破片が出土。

9月9日

1～5・8トレンチ周辺についてトレンチ配置図及び周辺地形平板実測作業。5トレンチはⅢ層の遺物包含層を掘り下げる。6・7トレンチの掘り下げを実施。6トレンチは表土が厚い。7トレンチは耕作土直下のⅢ層下位の残層より須恵器1点のみの出土である。8トレンチは、遺物包含層の掘り下げを実施。

9月10日

1・6・7トレンチ周辺について、トレンチ配置図及び周辺地形平板実測作業を実施。4トレンチはⅢ・Ⅳ層について掘り下げを実施。土師器などの遺物が出土した。5トレンチはⅢ・Ⅳ層の掘り下げを実施。7トレンチは、遺物出土状況平板実測作業・レベル測量などを行う。Ⅳ層より土師器・須恵器縄文時代晚期の土器片が出土する。1～3トレンチについては埋め戻し作業を実施。

9月11日

4・5トレンチは、Ⅲ・Ⅳ層について掘り下げを実施。土師器・須恵器などの土器片が出土する。平板測量・レベル測量などを実施する。6トレンチは湧水のためにポンプアップを実施しながら作業をすすめる。8トレンチは、Ⅲ・Ⅳ層の掘り下げを実施。

各トレンチ、精査後写真撮影及び土層断面実測作業を実施する。本日で調査を終了する。

なお、整理作業は、県立埋蔵文化財センターにおいて平成5年1月10日から実施した。

第2章 遺跡の位置及び環境

瀬戸口遺跡は、日置郡日吉町吉利字瀬戸口に位置している。

本遺跡が所在している日吉町は、薩摩半島の西海岸、日置郡のほぼ中央部に位置している。北側は東市来町、東側は伊集院町と松元町、南側は吹上町と相接し、西側には東シナ海の吹上浜を望んでいる。

日吉町を含めた連接町の地形は、北半分が薩摩半島の中央部を占めており、南半分が開折の進んだ軽石凝灰角礫岩の厚い層を基盤とし、その上に数層の火山灰が覆っているシラス台地で、南半分は山地となり、西海岸は砂丘とその内側に小台地群が発達している。

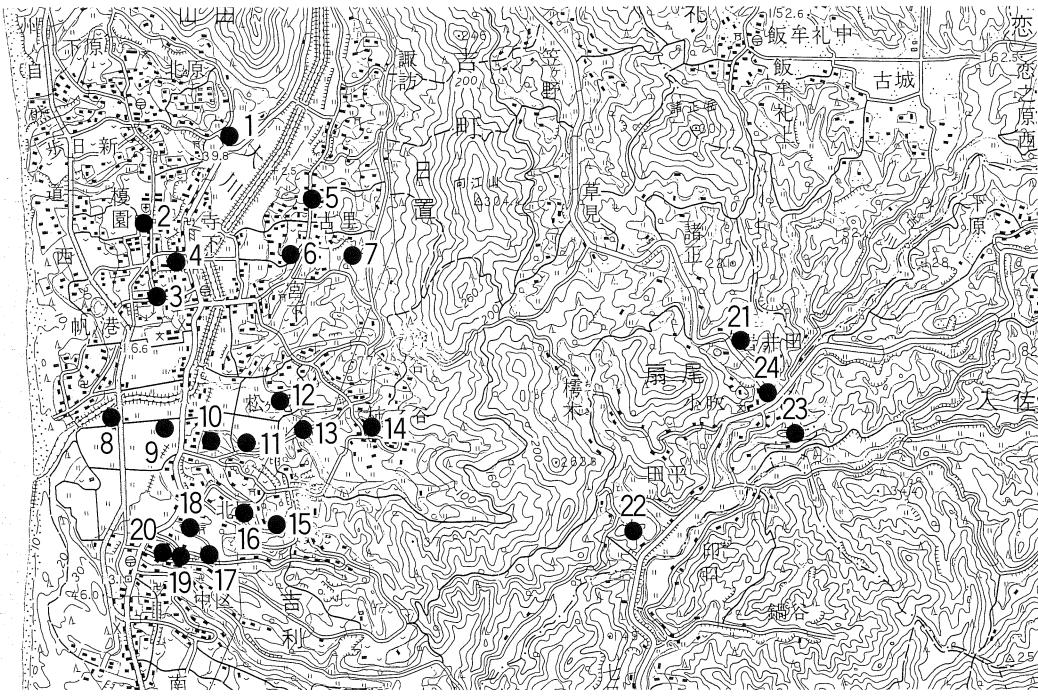
本町の地形は、東部山地を大谷山、鐘掛山、向江山、城山が南北に連り、標高約300m前後の中生層四万十群層に属する砂岩・頁岩からなる山林地帯である。中でも、308mを数える諸正嶽は本町の最高峰であり、向江山は304.4mを数える。これらの山々は、小規模の中起伏山地となっている。さらに、東側は花崗岩が分布し、その付近はホルンフェルス化している。鐘掛山の東麓に源を発しながら町の中心部を蛇行して吹上海岸へ流入する大川は、東部の山地を出ると低いシラス台地を開折し、狭い沖積低地をつくり水田が開けている。北部及び南部は平坦な火山灰台地で、シラス層が大半を占める畑作地となり、西側の吹上砂丘には松林が連なり、風光明媚な青松白砂の遠浅の砂丘海岸となっている。

日吉町は、明治28年に山田村・日置村の2カ村を統合して日置村と、吉利村として発足しており、昭和30年には両村合併により両村の頭文字をとり日吉町として町制を施行し、さらに、昭和31年には、旧伊集院村の二石・潟山を編入して現在の日吉町を形成している。

本町は、藩政時代に栽培した麻を原料に製造した漁網は、漁網工場へと発展し、販路を広げている。また、漁網とならび百年の歴史をもつ瓦製造は、大川沿いの良質の粘土を原料に生産し、日置瓦の原産地として広く知られている。

本町における埋蔵文化財包蔵地は、縄文時代や弥生時代の遺跡として大川遺跡（弥生土器の壺形土器、鉢形土器）、弥生時代の遺跡として日置遺跡（縄文土器、弥生土器）などが周知され、近年の農政関係の調査により新しく発見されている。縄文時代や歴史時代の遺跡として井尻遺跡・瀬戸口遺跡（瀬戸口遺跡：縄文時代晚期の深鉢・浅鉢片など）のほか、堀遺跡（縄文）、鎮守前遺跡（奈良・平安時代）、川口遺跡（古墳時代）、六ッ坪遺跡（古墳・歴史時代）がある。

日置という名称が史実にはじめて現れたのは、702年に薩摩国が置かれて薩摩十三郡のひとつとして、日置郡が設置された時と言われている。この日置の地名であった日置・吉利地区は、後に寺社領の莊園として、宇佐八幡の別当寺の弥勒寺莊園として寄進されていたことが、弥勒寺の古文書に残され、日置ノ莊の名が残ることとなったと郷土誌に記されている。元来、日置ノ莊は、日置北郷と日置南郷とに分かれ、南は永吉の小野で伊作郷との境界と接していたといわれている。この地は、日置ノ莊を取り巻く盛衰が展開されている。



第2図 周辺の遺跡

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
1	小野家一族の墓	日置寺の下	台地	鎌倉	五輪塔	
2	日置	梗園団地	平地	縄文・弥生	土器片	
3	大乗寺跡	日置古里東	台地		礎石	
4	古垣城跡	日置	台地			
5	安養院跡	日置中牟礼	畠	江戸	板碑	
6	鬼丸神社	吉利482	台地	安土桃山	鎧・鏡	
7	山田の田の神	山田下	平地	江戸	田の神	
8	大川	武田橋より下流	川原	弥生	土器片	
9	六ツ坪	吉利		古墳・歴史		
10	深固院跡	吉利岩井田	丘陵端		礎石	
11	瀬戸口	吉利	丘陵端	古代	土師器・須恵器・青磁	本報告書
12	井手ヶ跡	吉利5141-1	台地			
13	桂山寺跡	日置城の下	山の中腹		仁王像2体	
14	井尻城跡	吉利	台地			
15	吉利城跡	吉利	台地			
16	勝雄寺跡	原口と西山の境	台地上	文禄4年	墓	
17	勝手ヶ城跡	吉利	山地			
18	園林寺跡	吉利天司	丘陵端		経塚薬師如来像	
19	南谷城跡	吉利麓	台地	文禄年間		
20	若松城跡	吉利麓	宅地	南北朝		
21	乳地蔵	吉利岩井田	平地	室町	石地蔵	
22	田平城跡	吉利	山地			
23	鎮守前	吉利字鎮守前		奈良～平安		
24	堀	吉利字南区堀	丘陵	縄文		

第1表 周辺の遺跡一覧表

第3章 確認調査

第1節 調査の概要

調査対象地は、県営ほ場整備事業（日吉地区）が計画されたため、井尻遺跡・瀬戸口遺跡の両遺跡の取り扱いが関係機関及び関係者により協議が重ねられた。その結果、井尻遺跡については、現地保存の処置が施され地区除外とした。しかし、瀬戸口遺跡については、事業区域の範囲内より除外が不可能となり、今回確認調査を実施する運びとなった。

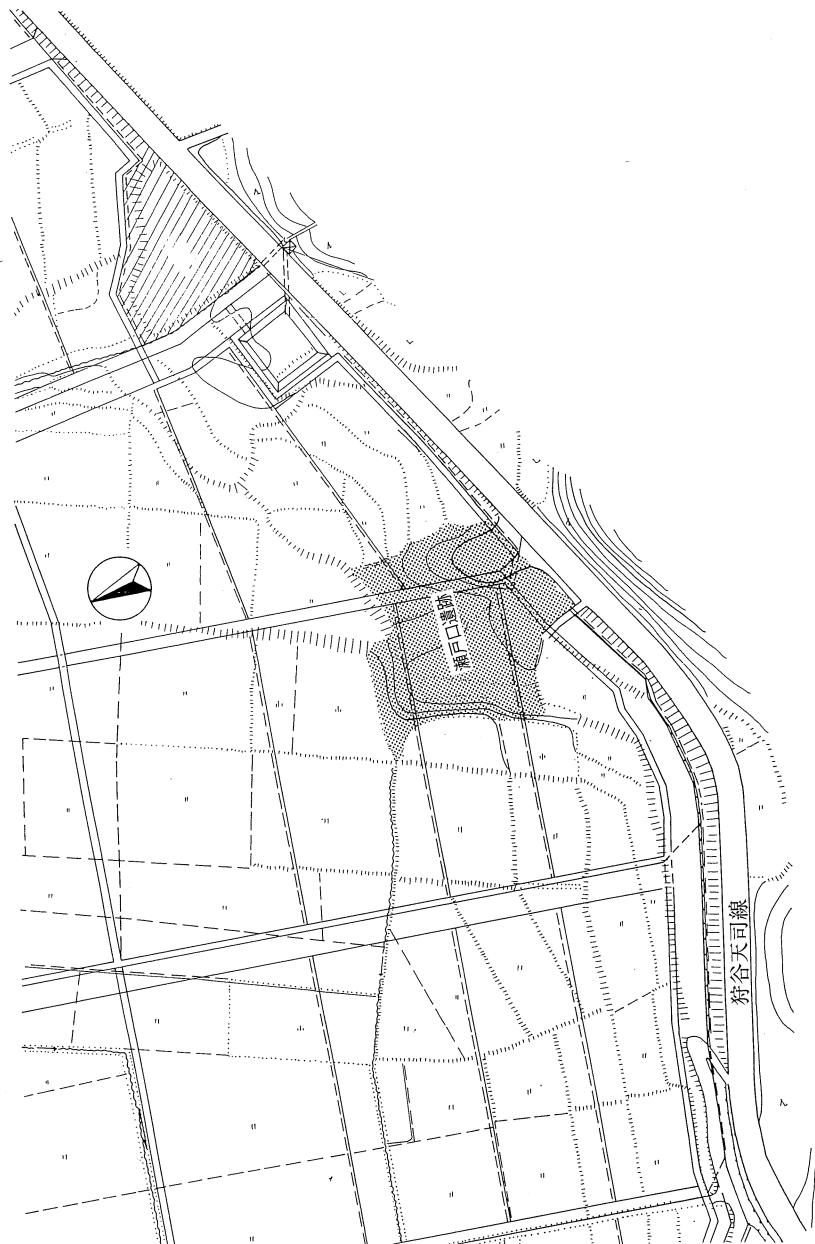
本遺跡は、沖積低地に接する丘陵の裾部に位置し、沖積低地を含めた湿地帯に立地しているため、後世の耕作等により段々畠状に化している。

発掘調査は、分布調査によって遺物の散布が見られた部分、農道建設予定部分及び切土となる地点を中心に、地形に沿って $2 \times 4\text{ m}$ のトレーナーを基本に7カ所設定した。一部、 $2 \times 5\text{ m}$ のトレーナーを1カ所設定した。調査の結果、1・2トレーナーにおいては、遺物包含層が既に削平を受け、耕作土直下は入戸火碎流（以下シラス）であった。3トレーナーは、耕作土直下にシラスやシラス混じりのシルト質の礫混じり土層となり、遺物包含層は既に消失していることが判明した。一方4・5・6・7・8トレーナーは、奈良・平安時代の土師器、須恵器を中心に縄文土器や中世の青磁器、染付などの破片が出土した。

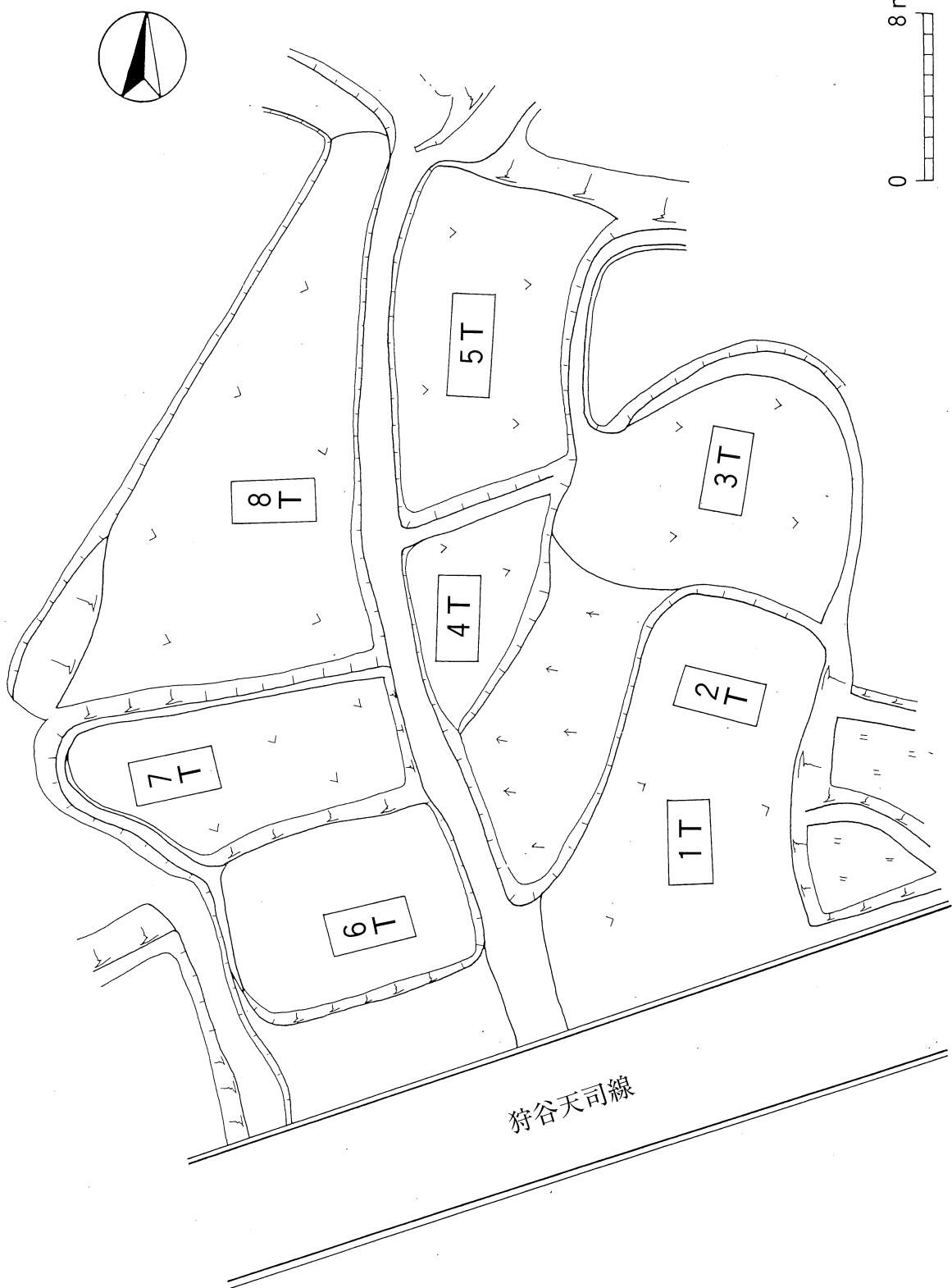
第2節 層序

- I 層 灰褐色もしくは茶褐色土。現耕作土。赤茶褐色（鉄分）が入り、ザラザラしている。トレーナーによっては、4分層され畠地造成土でシラスの2次堆積土のような土質で、シラスや白色軽石を含み、灰茶褐色土や明灰褐色土を呈し、やわらかく、しまりはない。表土よりかなりの部分まで攪乱を受けている。
- II 層 明茶褐色土。トレーナーによっては削平を受け、攪乱を受けているトレーナーもある。白色軽石を含みサラサラしている。
- III 層 暗茶褐色粘質土。湧水のためか暗赤褐色土が部分的に混入している。トレーナーによっては、乳白色や乳灰褐色を呈し、グライ化している部分もある。また、水質の多いトレーナーでは、シルト質を呈している。遺物包含層で、土師器・須恵器を中心に、青磁器、染付などが混在して出土した。ローリングした遺物が多い。
- IV 層 乳灰褐色粘質土。白色軽石を多く含む。トレーナーによっては、赤茶褐色粘質土を呈し鉄分が多量に含まれる。また、灰茶褐色や暗茶褐色を呈するトレーナーもある。
- V 層 明茶褐色粘質土。トレーナーによっては青灰色粘質土微粒でシルト化している。
- VI 層 暗茶褐色粘質土。トレーナーにより黄褐色でシルト化した部分もある。

第3図 濱戸口遺跡及び周辺地形図



第4図 トレーンチ配置図



第3節 各トレンチの調査

本遺跡では、分布調査の結果、工事計画区域内において土器の散布が確認された畠地に、事業着手前に遺跡の性格等を把握するための調査を実施することとなった。そこで、農道建設予定地部分、切土予定部分を中心に、 $2 \times 4\text{ m}$ を基本にトレンチを設定し、1カ所のトレンチについては、遺物出土状況により一部拡張して調査を実施した。

(1) 1 トレンチの調査

調査区の南東端部、丘陵地裾部から沖積低地へ突出した標高約15.4mの地点の町道に接する畠地に設けたトレンチで、長軸はほぼ南北に向く。土層は、現地形に沿って南から北へ緩やかに傾斜している。トレンチ内の西側壁での観察では、耕作土直下が褐色土の旧耕作土となり、その下位はシラスを含んだ軽石凝灰角礫岩となり、大幅に削平を受けているために遺物包含層は既に消失している。

(2) 2 トレンチの調査

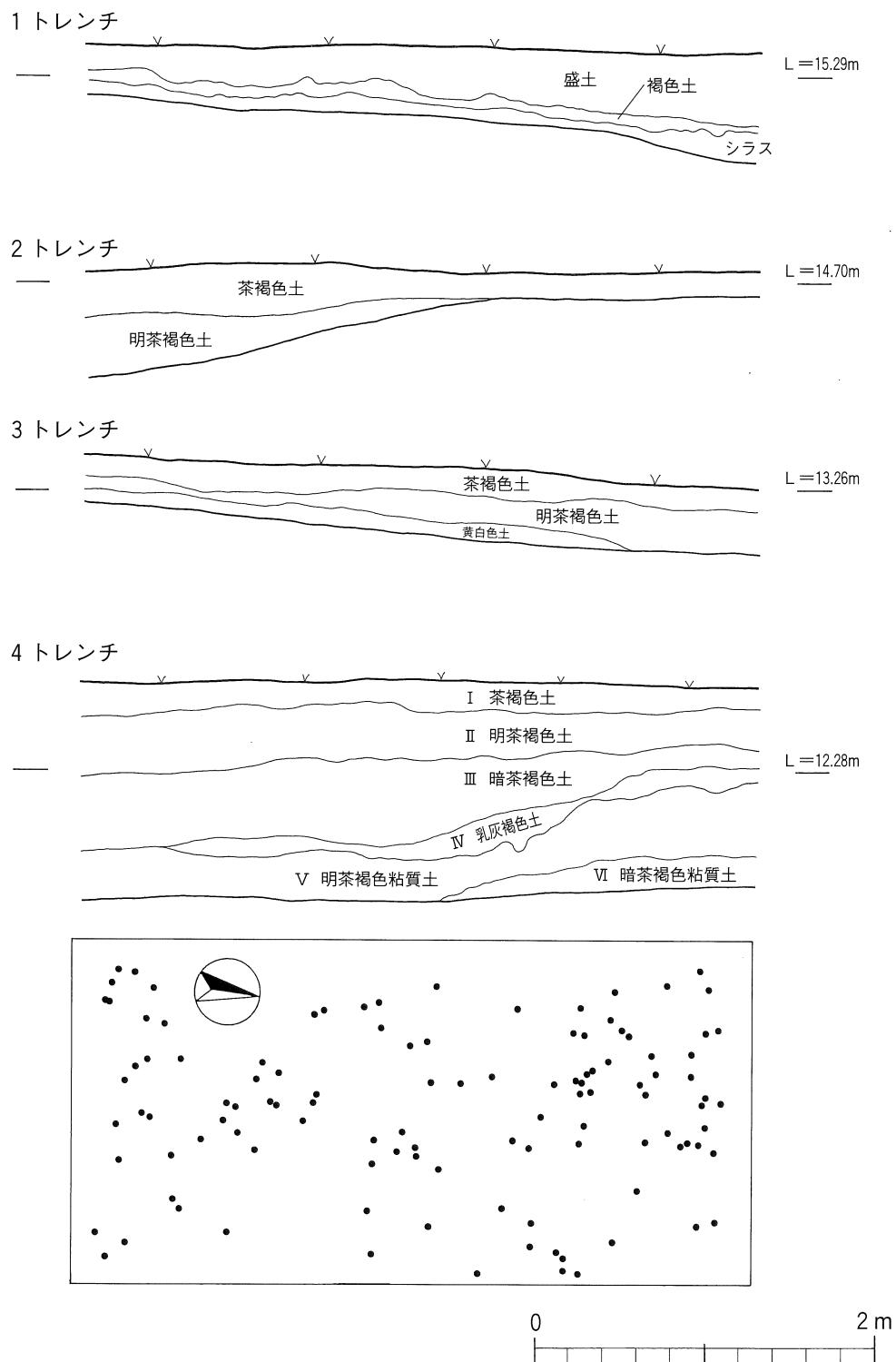
調査区の南東端部、1トレンチと同じ畠地で、標高約14.8mの地点に設けたトレンチで、長軸は略東西方向に向く。1トレンチまでは南側方面へ約8mを測る。トレンチを設定した地点は、東側及び北側への傾斜をもつ地形である。土層は、大幅に削平を受けているものの、トレンチ中央部付近より西側へは現地形に沿って傾斜している。耕作土は茶褐色土を呈しているがシラスとの混土で、その直下は明茶褐色土となり、シラスを含んだ軽石凝灰角礫岩であり、大幅に削平を受けている。そのために、遺物包含層はすでに消失している。

(3) 3 トレンチの調査

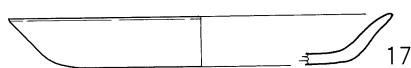
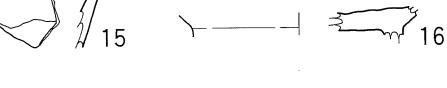
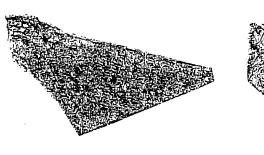
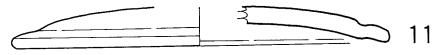
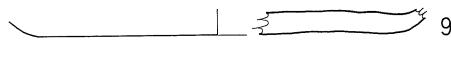
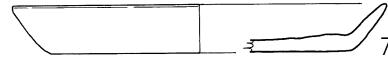
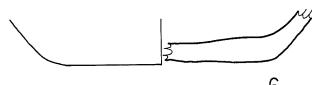
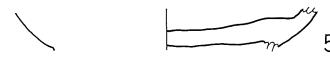
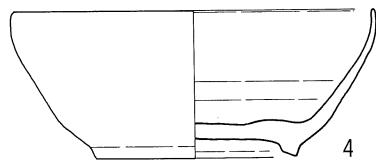
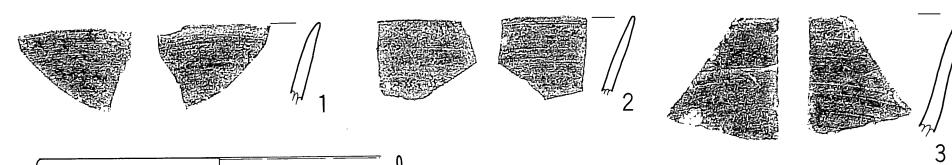
調査区の北東端部、標高約13.6mの地点に設けたトレンチで、長軸は略南北方向に向く。1・2トレンチ設定畠地の北側隣接地で、1トレンチより北側方向へ約13.5m、2トレンチまでは北側方向へ約7.5mを、それぞれ測る。同畠地は、荒地で北西部から東部にかけて傾斜をもつ地形である。土層は、大幅に削平を受けているものの、トレンチ中央部付近より西側へ現地形に沿って傾斜している。耕作土は、茶褐色土を呈しているがシラスとの混土で、その直下は明茶褐色土となり、シラスを含んだ軽石凝灰角礫岩である。1・2トレンチと同様大幅に削平を受け遺物包含層は既に消失している。

(4) 4 トレンチの調査

調査区のほぼ中央部、標高約12.8mの地点に設けたトレンチで、長軸は南北方向に向く。1・2・3・5～8の各トレンチ設定の畠地に取り囲まれた位置である。5トレンチの北側隣接地で、5トレンチより南側方面へ約8.5m、2トレンチから略西側方向へ約10mをそれぞれ測る。この地は、略三角形の形状を呈した平坦面をもつ狭少な畠地となり、東側隣接地はメダ



第5図 1～4トレンチ土層断面及び4トレンチ遺物出土状況



第6図 4・5トレンチ出土遺物

ケが生い茂る荒地である。土層は、現地形に沿って北側へ傾斜しているものの、基本的な層堆積を観察できる唯一のトレンチである。I層は、茶褐色土を呈する現耕作土で、II層は明茶褐色土である。部分的には灰褐色土となり攪乱を受けている。III層は、暗茶褐色土でトレンチの南側の一部を除けば厚く堆積し、奈良・平安時代から中世までの遺物包含層である。IV層は、乳灰褐色粘質土である。この層は、湧水が著しくトレンチ北側では消失しているが白色軽石をも含み、遺物は少量であるが土師器等が出土する。V層は明茶褐色粘質土で、III層と同様な厚さの堆積である。VI層は、暗茶褐色粘質土で、下位に下るほど湧水量は多くなり、部分的には青灰色シルト層が互層として入る。

出土遺物は、III層を中心に土師器の甕形・壺形・椀形・皿形や須恵器の椀・皿形などが出土している。しかし、破片や摩滅した土器が多い。

(4) 5 トレンチの調査

調査区の北側端部、標高約11.5 mの地点に設けたトレンチで、長軸は南北方向に向く。4トレンチの北側隣接地、8トレンチ設定の畑地の東側隣接地に当たり、4トレンチから北側へ約8.5 m、8トレンチの北側約7.5 mの地点に設定した。この畑地は、若干北側へ傾斜を呈し、北側の沖積低地の水田とはかなりの比高差がある。土層は、現地形に沿って北側へ傾斜しているが、表土から約50cmほどは後世の耕作等により攪乱を受けている。I層は基本的に灰褐色土であるが3分層出来る。II層は、灰茶褐色を呈するが僅かに残存している。III層は、灰褐色土でシラスの混入がある。IV層は灰茶褐色土で鉄分の混入が著しい。奈良・平安時代の遺物包含層である。V層は暗茶褐色粘質土で鉄分の混入が著しく湧水がある。

出土遺物は、III層を中心に土師器の甕形・壺形・皿形土器や須恵器の蓋形・皿形や青磁器などが出土している。一部IV層においても少量の遺物が出土した。全体的に破片や摩滅した資料が多く見られる。

(6) 6 トレンチの調査

調査区の南側部分、標高約14.8 mの地点に設けたトレンチで、長軸は略東西方向に向く。1トレンチ設定の畑地の西側隣接地で、1トレンチより西側方向へ約12.5 m、7トレンチの南東方向へ約7.5 mをそれぞれ測る。同畑地は荒地となり現況で大きく削平を受けている。土層の下位付近は、現地形に沿って西側へ大きく傾斜し、上位についてはかなりの盛土造成がなされている。I層からIII層までは削平後の盛土が考えられる層で、I層は茶褐色土を呈する耕作土である。II層は明茶褐色土でシラスとの混土である。I・II層ともにサラサラしている。その直下のIII層は、乳灰褐色に暗茶褐色土との混入土となり、シラスも多く含んでいる。IV層は暗茶褐色粘質土で、大きく西側へ傾斜を呈するが、かなりの湧水のため軟弱土となる。この層より土師器の口縁部破片が出土した。V層は青灰色粘質土に多くの鉄分を含み、部分的には赤茶褐色を呈する。トレンチ中央部付近から大きく西側へ傾斜している。III層とIV層との間には部

分的に黒褐色粘質土の間層がみられる。VI層は青灰色シルト層を呈し、IV層からVI層にかけてはかなりの湧水がみられる。

出土遺物は、IV層より土師器破片の出土があり、壺形か椀形か不明であるが2点の口縁部破片が出土した。

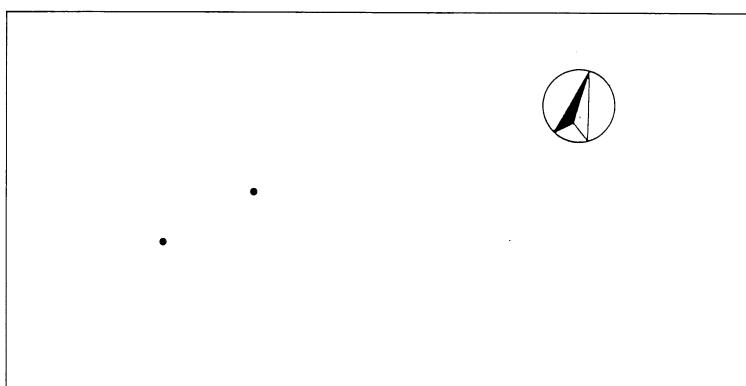
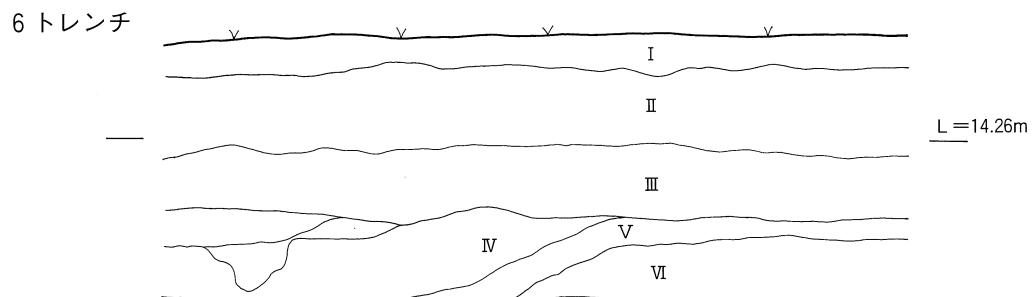
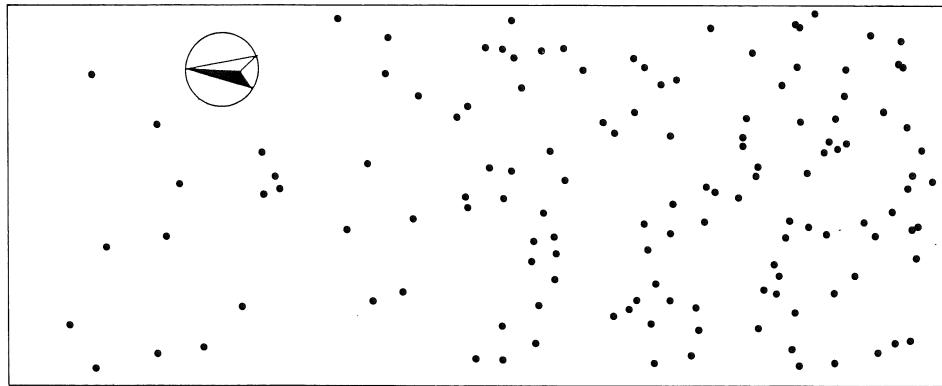
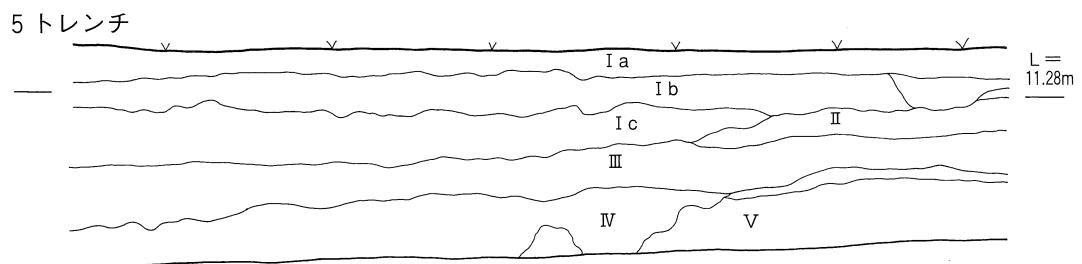
(7) 7トレンチの調査

調査区の西側端部、標高約13.2mの地点に設けたトレンチで、長軸は略東西方向に向く。6トレンチ設定の畑地の北側隣接地で、6トレンチより北西側方向へ約7.5m、8トレンチの南西方向へ約10.5mをそれぞれ測る。同畑地は6トレンチと8トレンチを設定した畑地に相接している。地層は現地形に沿ってほぼ水平を呈しているが、耕作土以下は大幅に削平を受けている。I層は、灰褐色土を呈する耕作土である。III層は暗乳灰色土でグライ化し、白色シルトがブロック状に入る。このII層最下部にはビニールが敷かれていたために、この層までは攪乱層である。III層は乳灰色粘質土で、かなりの鉄分のために赤褐色土がしみ込んでいる。この層より土師器の破片が出土している。IV層は明乳灰色シルト層で、鉄分のシミは確認できないがかなりの湧水がみられる。

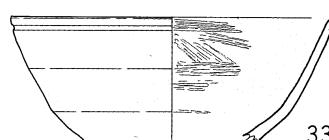
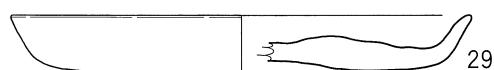
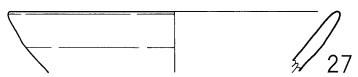
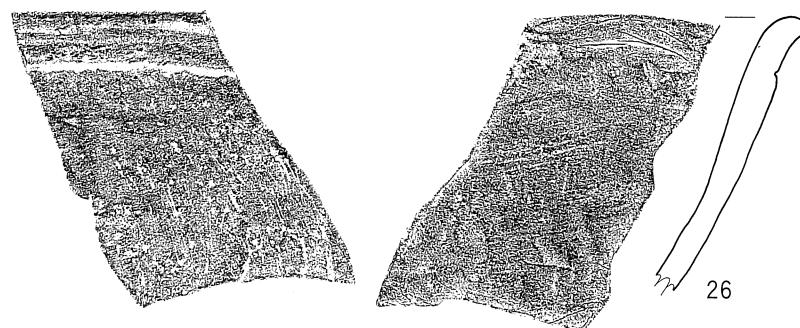
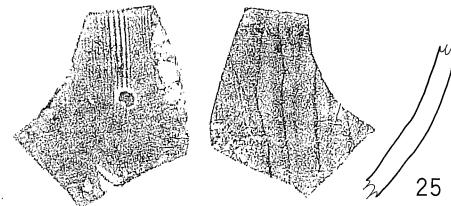
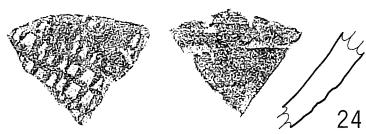
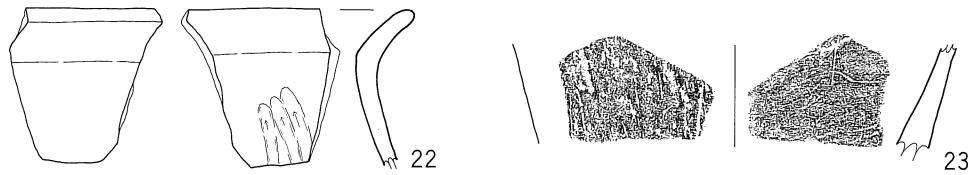
(8) 8トレンチの調査

調査区の北西側端部、標高約12.6mの地点に設けたトレンチで、長軸は東西方向に向く。4・5・7トレンチを設定した畑地にそれぞれ相接している。4トレンチより北西側へ約6.5m、5トレンチの南西方向へ約7.5m、7トレンチの北東方向へ約10.5mをそれぞれ測る。同畑地の現況は、略直角三角形の形状を呈し、南側部分はかなり削平を受けている。地層は、現地形に沿ってほぼ水平を呈するが、IV層以下はトレンチ西側付近から傾斜が始まる。I層は茶褐色土を呈する耕作土である。II層は明茶褐色土で白色軽石が混在している。I・II層共にサラサラしている。その直下のIII層は、乳灰褐色土でグライ化している。IV層は暗茶褐色粘質土で、かなりの鉄分のために赤褐色土となる部分も認められるが、かなりの湧水がみられる。このIII・IV層より土師器をはじめ、須恵器や縄文時代晩期の土器などの破片が出土した。

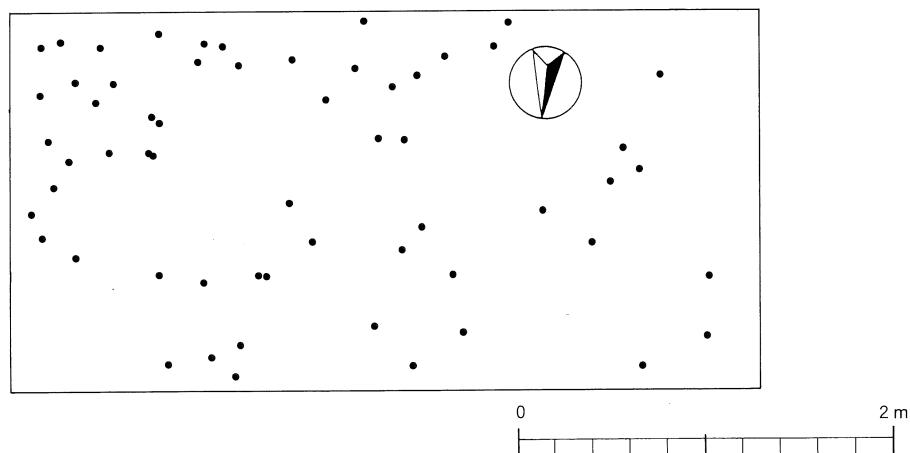
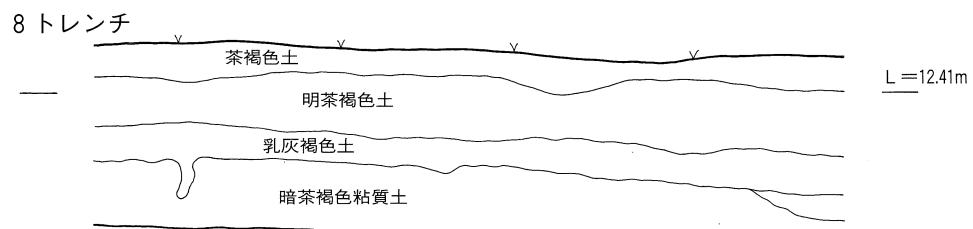
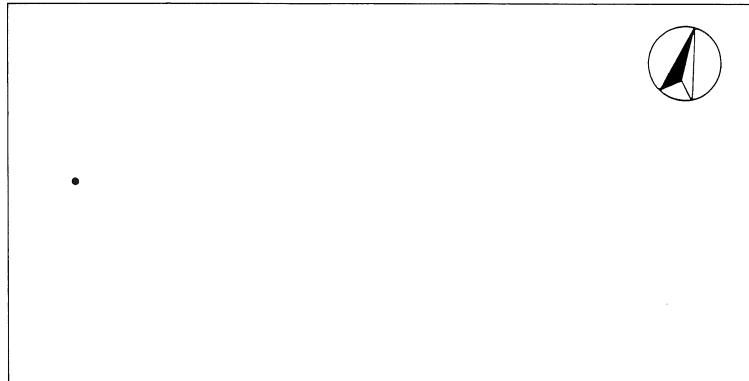
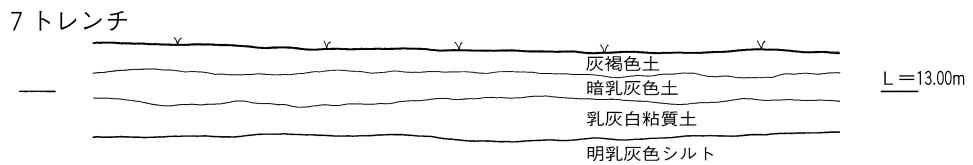
主な出土遺物としては、土師器の椀形・蓋形や縄文時代晩期の深鉢形・浅鉢形の土器片が出土した。



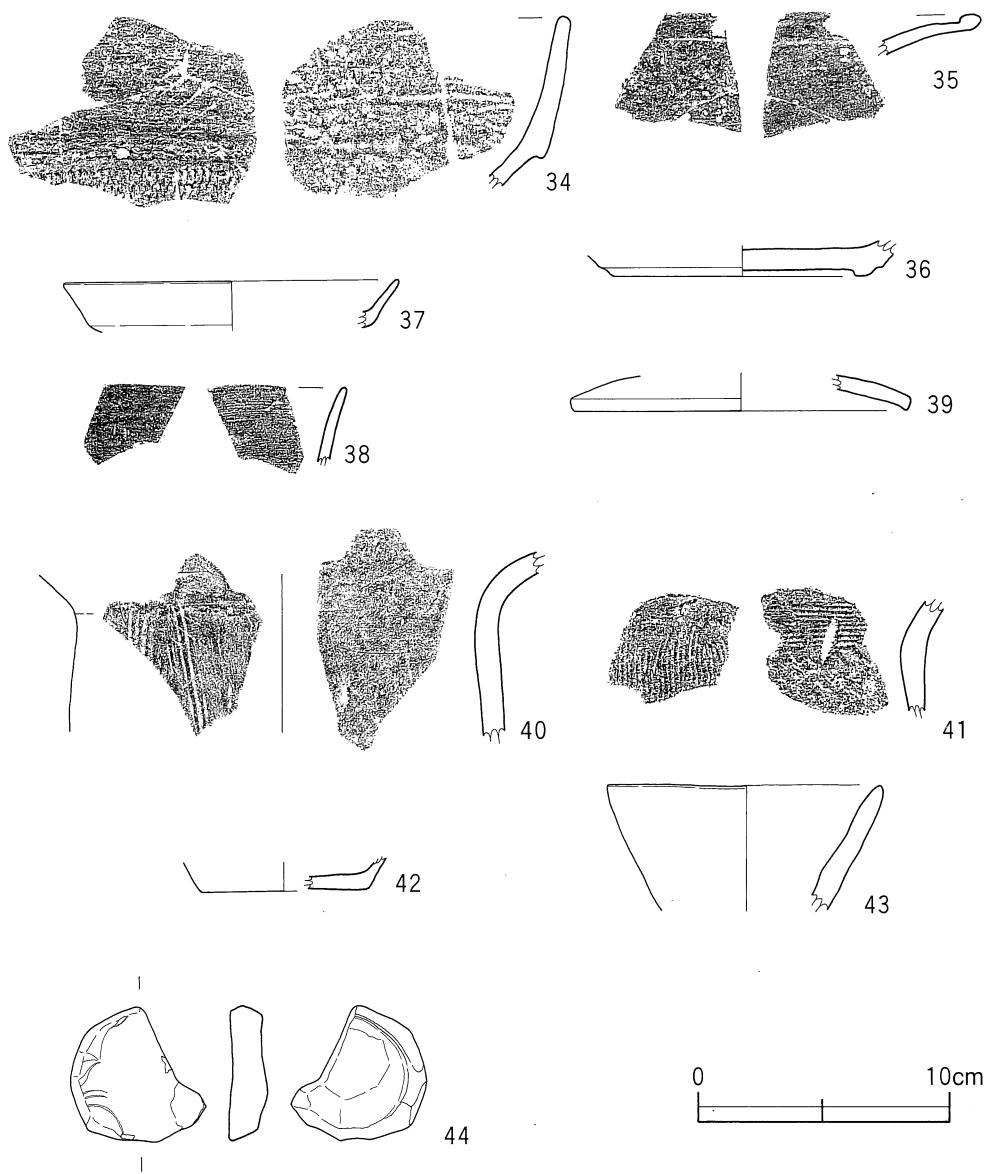
第7図 5・6トレンチ遺物出土状況及び土層断面図



第8図 5・6トレンチ出土遺物



第9図 7・8トレンチ遺物出土状況及び土層断面図



第10図 8 トレンチ・表採遺物

第2表 遺物観察表

挿図	番号	トレンチ	取上No.	層	種類	分類	計測値			色調		備考
							口径	高さ	底径	外面	内面	
6	1	4	199	3	須恵器	壺				灰褐色	灰褐色	
	2	4	13	3	須恵器	壺				灰褐色	灰褐色	
	3	4	48	3	須恵器	壺				灰褐色	灰褐色	
	4	4	201	4	須恵器	高台付き壺	14.2	5.8	8	灰褐色	灰褐色	
			12	4								
	5	4	184	4	須恵器	高台付き壺			9	淡茶褐色	淡茶褐色	
	6	4	191	4	須恵器	壺			9	淡茶褐色	淡茶褐色	
	7	4	4	3	須恵器	皿	14.8	1.9	12	灰褐色	灰褐色	
	8	4	194	3	須恵器	皿			9	灰褐色	暗赤褐色	
	9	4	28	3	須恵器	皿			14	灰褐色	灰褐色	
	10	4	51	3	須恵器	蓋				白灰褐色	白灰褐色	
	11	4	10	3	須恵器	蓋	15			淡茶褐色	淡茶褐色	
	12	4	222	2	須恵器	甕				赤黄褐色	赤黄褐色	
	13	4	185	4	須恵器	甕?				灰褐色	灰褐色	
	14	5	270	3	須恵器	壺	12			灰褐色	灰褐色	
	15	5	69	3	須恵器	壺				白灰褐色	白灰褐色	
	16	5	102	2	須恵器	高台付き壺				赤褐色	赤褐色	
	17	5	316	4	須恵器	皿	15.4	2	12	灰褐色	灰褐色	
			268	3								
	18	5	61	3	須恵器	蓋	15			灰褐色	灰褐色	
	19	5	172	3	須恵器	蓋	14			赤灰褐色	赤灰褐色	
	20	5	286	3	須恵器	甕?				灰褐色	灰褐色	
	21	5	169	3	須恵器	甕?				黑灰褐色	黑灰褐色	
	22	5	276	3	須恵器	甕				淡茶褐色	淡茶褐色	
	23	5	314	4	須恵器	甕				淡茶褐色	淡茶褐色	
8	24	5	291	5	須恵器	甕				淡茶褐色	淡茶褐色	
	25	5	263	5	須恵器	甕				淡茶褐色	淡茶褐色	
	26	5	314	5	須恵器	鉢				淡茶褐色	淡茶褐色	
	27	5	260	3	須恵器	壺	13.2			赤茶褐色	赤茶褐色	
	28	5	151	3	須恵器	壺			9.8	淡茶褐色	淡茶褐色	
			152	3								
	29	5	292	3	土師器	皿	18.4	2.2	16	淡茶褐色	淡茶褐色	
			250	3								
	30	5	161	3	青磁器	稜花皿						
	31	5	171	3		碗	8			青白色	青白色	
	32	5	158	3	すり鉢					暗灰褐色	暗灰褐色	
10	33	6	245	3	土師器	碗	13			淡茶褐色	淡茶褐色	内外面赤色
	34	8	121	4	土器	組織痕				暗茶褐色	暗茶褐色	
			125	4								
	35	8	231	4	土器					黑褐色	黑褐色	
	36	8	111	2	須恵器	高台付き壺			10.4	淡茶褐色	淡茶褐色	
	37	8	118	3	須恵器	皿	13.2			暗茶褐色	暗茶褐色	
	38	8	113	3	須恵器	皿				灰褐色	灰褐色	
	39	8	240	3	須恵器	蓋	13.2			灰褐色	灰褐色	
			134	4								
	40	8	140	4	須恵器	甕				淡茶褐色	淡茶褐色	
	41	8	132	3	土師器	甕				淡茶褐色	白茶褐色	
	42	8	144	4	土師器	皿				淡黃褐色	淡黃褐色	
	43	8	138	4		片口鉢				灰茶褐色	灰茶褐色	
	44	表採			メンコ					灰白	灰白	

第4章 調査のまとめ

本遺跡は、薩摩半島の西海岸、日置郡のほぼ中央部に位置する日吉町に所在し、吹上浜の海岸へ流入する大川をはじめとする小河川により出来た沖積低地に隣接し、丘陵より延びるその裾部の狭少な台地に位置している。

調査では、湧水などの条件により基盤層まで完掘出来なかったトレンチもあった。沖積低地に接しているために湧水があり、層の堆積状況も一様ではない。また、後世の開墾や耕作などにより大幅に削平を受けたトレンチも多かった。

遺構は、確認・検出されなかった。遺物は、4～8トレンチより出土した。これらの出土遺物は、当地が莊園との関わりが多い土地であるため、これに関連する遺構を期待したが残念ながら関連するものは確認できなかった。しかし、遺物については興味のある土師器や須恵器などの古代を中心とした遺物が出土した。これら遺物の時間的な位置付けは、概ね8世紀後半から9世紀初頭に推定できる。これまで、該期の資料は決して多い方ではなく、セット関係などにおいて貴重な資料となるものと思われる。

また、縄文時代晩期の土器片も少ないながら出土している。34は、いわゆる組織痕土器と呼ばれるもので、薩摩半島での出土は大隅半島のそれと比べると決して多くはない。類例の増加を待って検討が必要なものである。

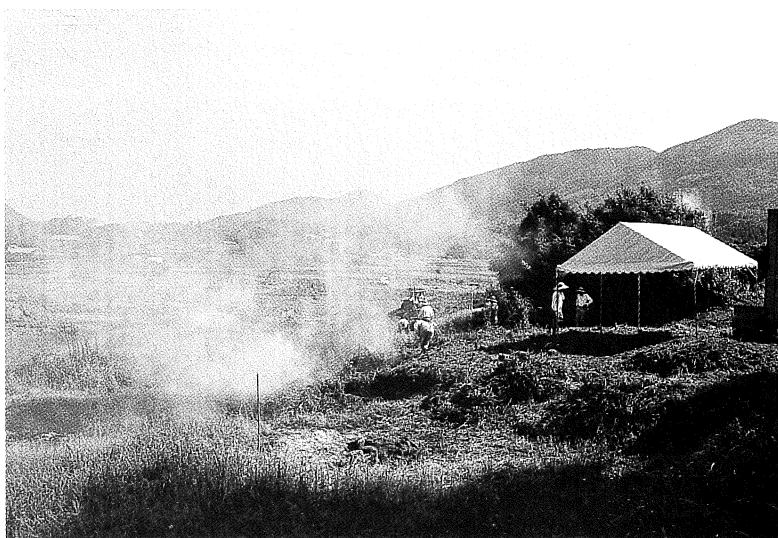
今後の処置として、発掘調査終了後に、県文化課・県立埋蔵文化財センター・県農政部（伊集院耕地事務所）・日吉町教育委員会・日吉町耕地課などの関係機関により協議し、1～3トレンチについては事業主体者に引き渡し工事施工した。4～8トレンチに関しては、盛土工法による設計変更で現地保存を実施した。

圖 版

遺跡近景



遺跡近景



調査風景



4 トレンチ
調査風景



4 トレンチ
調査風景



4 トレンチ
調査風景





7 トレンチ
調査風景



4 トレンチ
調査風景



2 トレンチ
完掘状況

図
版
4

2 レンチ
完掘状況



4 レンチ
遺物出土状況



4 レンチ
遺物出土状況



4 トレンチ
遺物出土状況

図
版
5



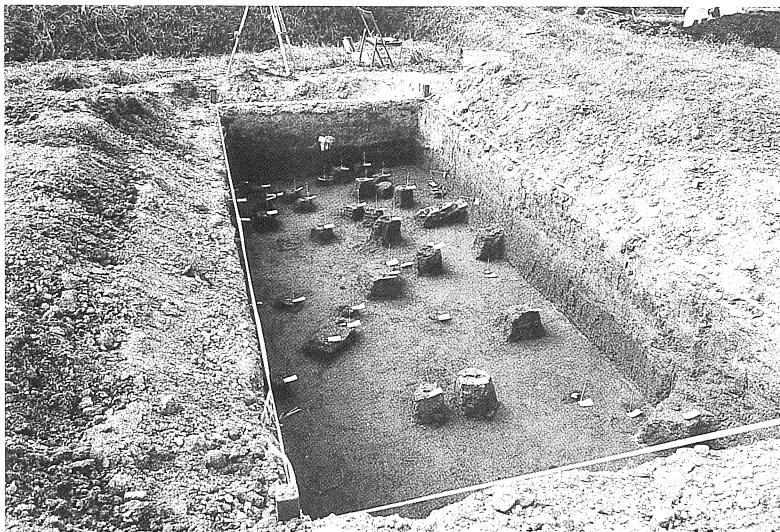
4 トレンチ
土層断面



5 トレンチ
遺物出土状況



8トレンチ
遺物出土状況

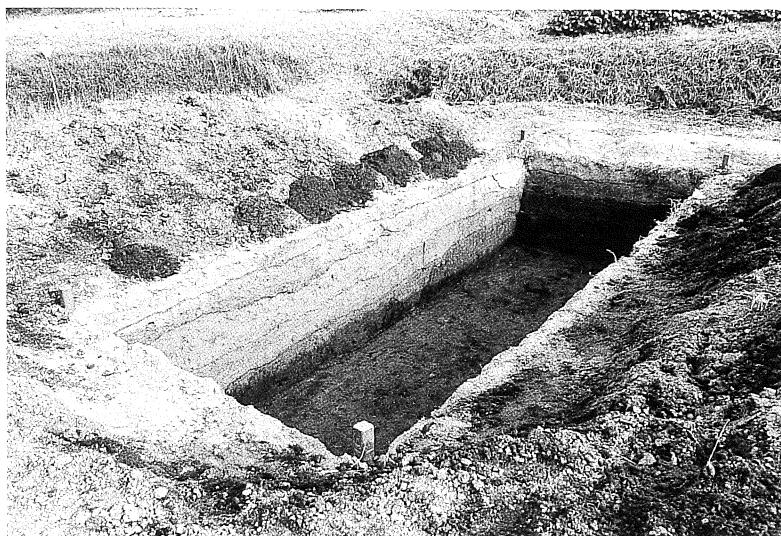


8トレンチ
遺物出土状況

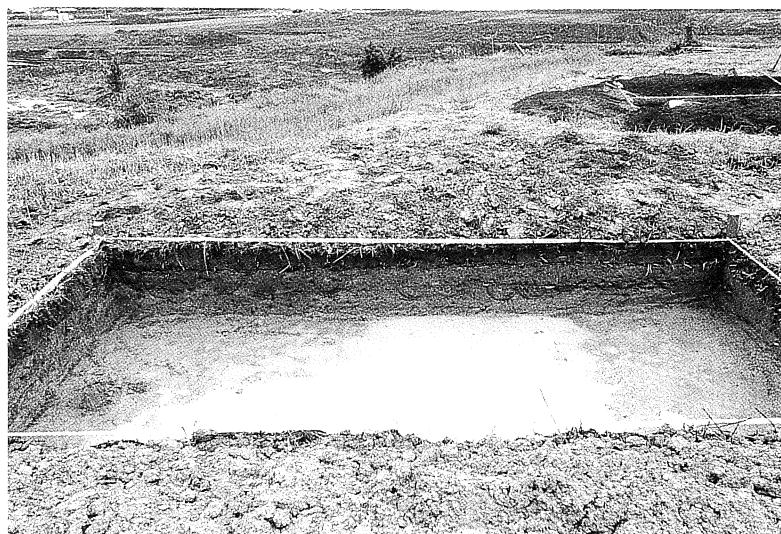


4トレンチ
遺物出土状況

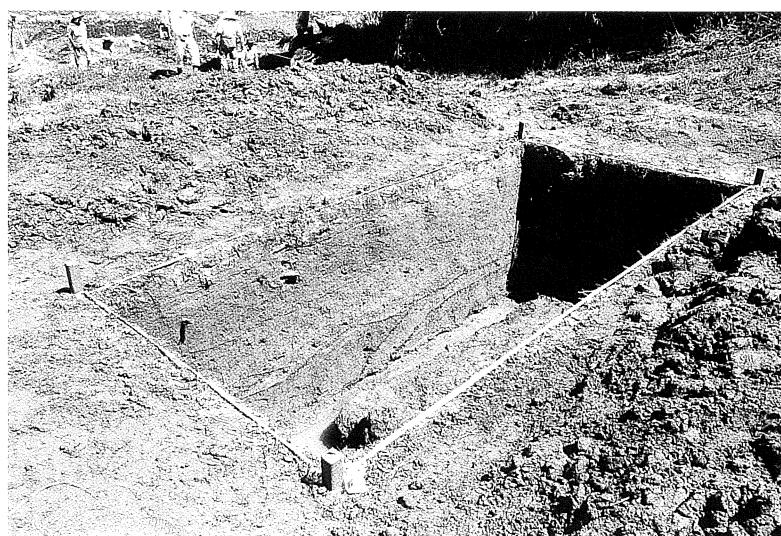




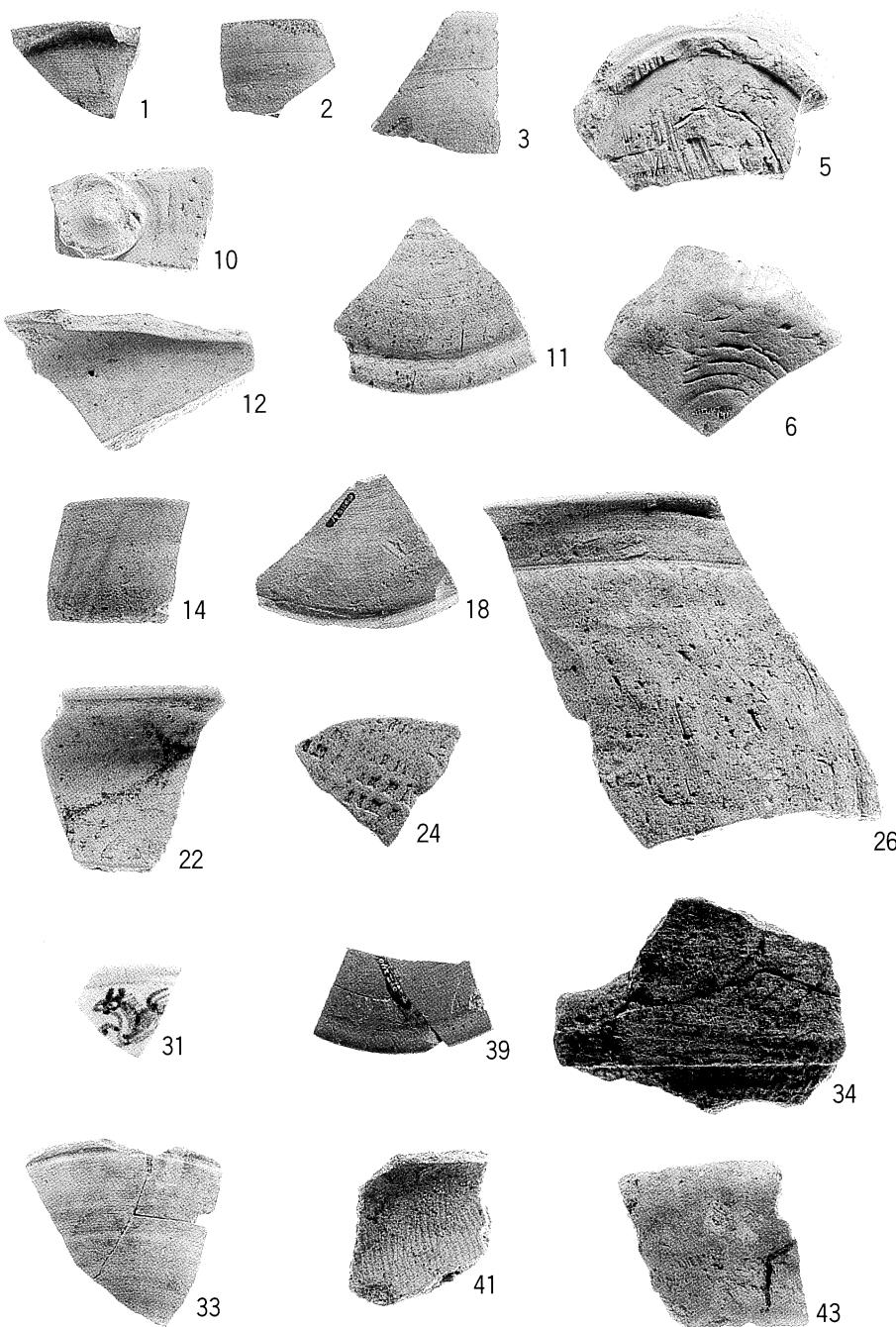
5 トレンチ
土層断面



7 トレンチ
完掘状況



6 トレンチ
土層断面



出土遺物

日吉町埋蔵文化財発掘調査報告書（1）

瀬戸口遺跡

発行日 平成5年3月31日

発行者 日吉町教育委員会
日置郡日吉町日置377

印刷所 (株)朝日印刷
鹿児島市上荒田町854-1

